

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 60分

## 解答形式

選択・記述・論述・計算

## 分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

## 出題の特徴や昨年との変更点

選択形式の問題数が大幅に増加した。

論述問題の問題数は昨年と同じ4問であったが、総論述字数は100字から140字とやや増加した。

## その他トピックス

「生物基礎」の範囲からはほとんど出題されなかった。

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[I]	選択記述	呼吸・発酵	生物	問3 解糖系とクエン酸回路で生じた還元型補酵素に着目して解答する。	やや易
[II]	選択記述 論述	遺伝子	生物	問1 ④蛍光標識したジデオキシリボヌクレオシド三リン酸と蛍光標識していないデオキシリボヌクレオシド三リン酸を利用する。 ⑤合成された2本鎖DNAを1本鎖にしてから電気泳動を行う。 問3(1) 6は3の倍数であるが、4は3の倍数ではないことに着目して解答する。 問5 論述字数が少なく、解答しづらい。「細胞内における局在」などに触れてもよいだろう。	標準
[III]	選択記述 論述	静止電位 活動電位 興奮の伝導	生物	問5 1回目の興奮直後は不応期の状態にあることが記されていればよいだろう。	標準
[IV]	選択記述	植物の成長	生物	問4 化合物Aが「生きた宿主の根が <u>近傍に存在する</u> 」ことを示すシグナルとしてはたらくために必要な性質を答える必要がある。	標準
[V]	選択記述 論述 計算	個体群 生態系	生物	問3 ①個体数の変動がみられない生物では、「出生率＝死亡率」の関係がみられるが、分類群を問わず死亡率が同じであるとは限らない。 問4 $20万 \times 0.1/100 \times 1/10 \times 1/10 = 2$	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

- ・知識問題が多く出題されるので、基本的な問題で取りこぼさないようにすることが重要であり、全分野を通して、教科書を中心とした学習による基礎力の養成と標準的な問題演習が不可欠である。
- ・論述問題と考察問題で点数に差がつくので、論述答案作成の練習を行うとともに、問題演習を通じて考察問題に対応できる力を養っておく必要がある